

令和7年度 事業報告

I 概要

「高岡市総合計画第4次基本計画」では、「豊かな自然と歴史・文化にまつまれ、人と人がつながる『市民創造都市』高岡」というまちの将来像に向け、「歴史・文化」分野において、めざすまちの姿を「暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている」まちとして掲げている。

これを踏まえ事業団では、地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成に向け取り組むとともに、各文化施設等が市民に有効に活用されるよう、事業団独自のノウハウやネットワークを活かし、利用者ニーズに沿った施設管理と事業展開に努め、高岡市の芸術・文化の振興に貢献する。

○ 文化施設等の適正な管理と利用の促進

令和7年度は、万葉歴史館、美術館、博物館、文化芸能館、ミュゼふくおかカメラ館、動物園及び生涯学習センター（ホール施設）の7施設の第5次指定管理協定期間（令和4年度～令和8年度）の4年目であった。

各文化施設等が利用者に安全・快適に施設を利用していただけるよう、施設管理に万全を期すとともに、利用者のニーズに沿った施設管理と事業展開に努めた。

II 各施設の事業内容

1 事務局事業（文化振興事業）

4月に共催事業として初となる「ショパン音楽大学室内管弦楽団高岡公演」を開催。4・5月に北陸最大の音楽イベント「ガルガンチュア音楽祭」高岡公演を「世界をつなぐハーモニー」をテーマに開催し、また、北陸ゆかりのアーティスト集団「ガルブラス」による勝興寺公演のほか、実力派の若手アーティスト黒木雪音（ピアノ）とアウシマス・パレホ（ギター）による公演、計2公演を実施した。

5月には平成6年度より継続する未来へ繋ぐ舞台鑑賞事業「10才のファーストコンサート」を、市内4年生の全児童を対象に、富山県高岡文化ホールにて1日間2公演を開催した。松井慶太氏率いるオーケストラアンサンブル金沢による熱演により、本市が誇る教育普及事業として31回目を実施した。また、「親子で楽しむ0歳児からのコンサート Vol. 3」は、定員を大幅に超える抽選申し込みがあり、家族で『Duo Gratus with 小西史紘』の工夫を凝らした演奏を楽しんだ。

7月には県内若手音楽家によるアウトリーチ事業として『Duo Gratus（デュオ・グラートゥス）』が成美小学校と高陵小学校にて音の楽しさを体感するアウトリーチを実施した。また、高岡市内の複数合唱団が出演する「Amici in TAKAOKA2025～高岡に響くハーモニー～」を開催した。そして、コンサートピアノ体験会を2日間実施し、22組の参加者がホールでスタインウェイを奏でる貴重な体験を満喫した。

9月には「カルテット・スピリタス」公演・アウトリーチ事業を、（一財）地域創造の助成を受けて開催した。サクソフォン・カルテット『カルテット・スピリタス』により、4日及び5日には市内小学校2校（太田小・高岡西部小）を訪問しアウトリーチ事業を実施し、6日には生涯学習センターホールにて本公演を開催した。翌日には今年度2回目の「新日本電工100周年 Presents 親子で楽しむ0歳児からのコンサート Vol. 4」を開催した。

10月には劇団四季による「こころの劇場」公演を市内小学校6年生児童を対象として開催。富山県高岡文化ホールにて午前・午後の2公演を行い、「カモメに飛ぶことを教え

た猫」の演劇を鑑賞した。またリサイタル支援事業として高岡工芸高校出身のサクソフォン奏者の北島実幸氏による「サクソフォンと歩む道 『北島実幸 サクソフォンデビューリサイタル』」を開催した。

12月にはホール拠点市民文化活動活性化事業として地域で活動する芸能団体や伝統芸能に取り組む青少年の活動支援・発表の場の提供として「高岡青少年伝統芸能ステージ2025 同時開催 高岡青少年華展」を高岡市芸術文化団体協議会と共催で開催。多くの市民に地域の芸能文化に触れる機会を提供した。

3月には当事業団設立35周年記念事業として鬼才・尾上和彦の傑作オペラ「ヤカモチ」を開催。高岡市民に親しまれている話を新たな切り口で体験すること貴重な機会となる。

7年目を迎える高岡駅や御旅屋セリオなど「まちなか」に賑わいを創出する「ユニークベニューTAKAOKA プロジェクト」事業の一つで、毎月1～3回のペースで開催する「ユニークベニュー・オン・まちなかステージ」を実施した。情報発信事業である文化情報誌「iku*cha」は地元企業等からの協賛を得て5月に夏号、8月に秋号、11月に冬号、2月に春号を発行し、鋭意PRを進めた。

「第54回高岡市芸術祭」は、高岡市芸術文化団体協議会・高岡市美術作家連盟とともにテーマ「和衷協同（わちゅうきょうどう）」とし、10月から11月にかけて開催した。自主事業では、7月に「夏のわくわくワークショップ」を2回、9月に「青少年わかば公演（第13回たのしい子どもおどりの会）」、9月から「おでかけ公演・講座」を計11講座、「伝統芸能文化鑑賞教室」を12月に開催した。

2 事務局事業（生涯学習事業）

市民の生涯学習及び交流の場を提供し、本市における生涯学習の振興を図るため、さまざまな事業を実施した。

生涯学習センター講座開設事業では、「古里の自然と文化」や「高岡城と守山城」をはじめとした多彩な自主講座や、県内の大学と連携して実施する専門的な講座、小中学生を対象とした能楽講座等を開催した。

リトルウイングにぎわい創出事業では、「SONGS LONG VACATION」を開催し、好評を博した。

3 万葉歴史館事業

万葉歴史館では、『万葉集』や越中万葉をテーマとした展示や学習講座等を開催し、「万葉のふるさと高岡」と『万葉集』の魅力为全国に向けて発信した。

展示機能では、特別企画展「折口信夫の能登・越中」では、万葉集研究に多大な影響を与え続けている国文学者・民俗学者である折口信夫と大伴家持と、能登・越中との関わりを紹介した。特別企画展「小泉八雲と万葉集」では、小泉八雲とその妻のセツをモデルにしたNHK朝の連続テレビ小説「ばけばけ」放映に合わせて、万葉集の多数の七夕歌をのせた小泉八雲の随筆「天の河縁起」などを紹介しながら、八雲と万葉集の関わりについて紐解いた。特別展示「第2回 藤原館長が選ぶ スマホで万葉集」では、SNSで投稿された「私の万葉集」の写真の中から、藤原館長が厳選した若い感性あふれる秀作をはじめとした応募作品を、万葉歌と共に展示した。NHK大河ドラマ「べらぼう」の放映に合わせて、回廊展示「万葉集と蔦屋重三郎 ～国学者とひらいた古典の地平～」のパネル展を開催した。江戸時代に、万葉集がどのように一般に広まり、人々の知的関心を刺激したのか、当館所蔵の加藤千蔭『万葉集略解(まんようしゅうりやくげ)』などを

通じて紹介した。

教育普及機能では、例年実施している高岡万葉セミナーを開催した。学習講座は、館長講座 あそびと万葉集―「折口信夫講義」をよむ―・「万葉集をよむ」・「古代への招待」・「万葉秀歌を読む」と、出前講座の「はじめての万葉集」（会場 高岡市生涯学習センター）を前年度に引き続き開講した。臨地研修型の講座の「万葉故地めぐり」は、都合により、開催中止とした。また、富山大学での研究員による万葉集に関する講義等を通して、学生に越中万葉への関心を抱かせ、より親しんでもらえるように取り組んだ。

調査・研究・情報収集機能では、万葉歴史館の研究の成果を紹介する『高岡市万葉歴史館紀要』第36号を出版した。

観光・交流機能では、春と秋の連休に「万葉衣装体験」を開催した。万葉への魅力向上を期して、来館者に対しては、親しみやすくボランティア「和草」（説明員）が、学校や団体客等に対しては、研究員自らが案内をした。

他館・地域等との協力では、第10回 高校生万葉短歌バトル in 高岡や、大伴家持卿頭彰会記念講演 大伴神社創建40周年記念などが実施され、当館の利用促進につながった。

4 美術館事業

4月から5月にかけては日本芸術文化振興会の助成を受け、「昭和100年記念 あの頃みんな子どもだった―タイムトラベル！博労小120年の図画教育」を開催した。本展では、広島大学大学院准教授・蜂谷昌之氏監修のもと、高岡市立博労小学校が明治34年の開校当初から保存してきた児童の卒業記念作品の中から児童画約300点を展示した。地方の図画教育の変遷や、描かれた当時の生活様式、地域の街並みなどを振り返る内容となった。

7月から8月にかけては、「英国王室に咲くボタニカルアートとウェッジウッド～植物画のおいたち～」を開催した。英国で発展した植物画（ボタニカルアート）と英国王室が庇護したウェッジウッド社の陶器を様々なテーマで展示した他、富山藩制作の植物図譜や南砺市出身の日本画家・石崎光瑤のスケッチ帖など、地元ならではの特集展示も行った。開催期間中は関連催事としてアフタヌーンティーパーティーやワークショップを開催するなど、幅広い年代から好評を得た。

また、9月から10月にかけては「伏木と能登ゆかりの名品を訪ねて―重要文化財特別公開 等伯仏画と洛中洛外図屏風／同時開催：祝100年！コレクションで振りかえる昭和」を開催した。当館に寄託されている2件の重要文化財を10年ぶりに同時公開し、令和6年の能登半島地震で大きな被害を受けた伏木地区のシンボル・勝興寺に伝わる文化財と能登ゆかりの画家・長谷川信春（等伯）作品をとおして、あらためて地域文化の豊かさを認識する機会を提供するとともに、（一財）自治総合センターの助成を受けて地域交流プログラムを実施した。

また、定例展として「第64回日本伝統工芸富山展」、「コレクションにみる 高岡の金工・漆芸」、「第31回高岡市民美術展」、「高岡市美術作家連盟展」、「第12回クリエイティブたかおか」、「GEIBUN17」を順次開催した。

藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーでは、まんが原面の展示を通じて、幅広い世代に藤子・F・不二雄先生のメッセージを伝え、先生の作品を身近に感じていただき、理解を深めた。

企画展示では、9周年原画展 藤子・F・不二雄原画展「まんがに見る食の風景」（前期12/1～6/1、後期6/3～11/24）を、また12月1日からは開館10周年記念 藤子・F・不二雄原画展「はじまり、はじまり、そしてこれから」（第1期12/1～3/29、第2期3/31～7/26、第3期7/28～11/28予定）を開催している。

5 博物館事業

展示事業としては、昨年度から継続して7月まで館蔵品展「昔の道具とくらし」を開催し、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしについて展示・紹介した。

常設展「高岡ものがたり」（通年開催）では、高岡の歴史・民俗・伝統産業を分かりやすく紹介し、団体見学への展示解説等を行った。常設展の内「お宝コーナー」では、「市出身記者が見た2・26事件」、「高岡市五長老筆跡」、「戦後80年 陸軍歩兵伍長・佐野正吉氏関係資料」、「国泰寺のお宝③ 初公開の古文書」を順次開催した。

また、7月末から開始した高岡古城公園指定150周年・国史跡指定10周年記念 特別展「高岡古城公園の150年」では、当館収蔵の高岡古城公園関係の絵図・地図を中心に展示・紹介したほか、遷座150周年を迎える射水神社所蔵の貴重な社宝も特別出品していただいた。

11月から開始した企画展「救い出された資料たち」では、令和6年能登半島地震以来、当館で行ってきた被災資料レスキュー（計17件）における取組みの成果の一部を展示・紹介した。

2月に開始した館蔵品展「昔の道具とくらし」は恒例の民具等を展示し、特集展示コーナーでは「菓子木型」を紹介した（次年度7月5日まで開催予定）。

教育普及事業としては、外部講師による郷土学習講座（全4講）や特別展講演会（1回）、伝統産業講習会（1回）のほか、当館職員による古文書講座「初めての古文書教室」（全6講）を開催した。また、桜の開花時期にあわせた屋上開放イベント「古城公園展望台」の開催のほか、夏休みの自由研究・調べ学習サポート「教えて！学芸員」も行った。そのほか、講師・委員の派遣協力、出演、監修、制作協力なども行った。

資料収集・保存活動では、高岡の歴史・民俗・伝統産業に関わる資料の収集・保存に努めた。また昨年度に引き続き、国泰寺所蔵資料（伝近藤勇所用 紺糸威二枚胴具足・西郷隆盛書簡）の寄託を受けた。

調査研究活動では、日ごろ博物館に寄贈される資料の調査・整理に取り組んだ。また、「産学官連携に基づいた地域資料継承支援事業」の一環で、高岡市伏木地区の古文書等歴史資料の調査研究活動を行った。加えて「高岡鋳物の製作用具及び製品」の重要有形民俗文化財指定にかかる当館所蔵の鋳物資料調査も引き続き行った。またこれまでに調査が終了した資料台帳の内容を精査し、当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、1,539件の資料情報をネット公開している。

6 文化芸能館事業

諸室の貸与では、13室の貸室があり、3階の能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能に活用されている。

また、1・2階の研修室等では市民の学習・文化活動・芸能活動・各種会合等で利用されている。

7 ミュゼふくおかカメラ館事業

当館は、クラシックカメラの保存・活用並びに写真文化の振興・発展を図り、カメラ文化の知識と理解を深める生涯学習の拠点として、カメラ常設展示・企画写真展・教育普及の3本柱で事業を展開している。

企画写真展事業では、春夏秋冬に多彩な企画を実施している。

4月～6月の春の季節には、「高砂淳二写真展 LIGHT on LIFE」を開催した。国際的な評価が高く、海洋風景を得意として国内外の写真ファンを魅了する高砂氏の写真展を開催した。地球を愛することが地球環境保護に繋がるという写真家の意識に気づかされる機会ともなった。

6～8月の夏の季節には、「土肥美帆写真展 北に生きる猫ーみんなケンジを好きになるー」を開催した。夏休み期間に家族で来館できる企画を目指し、SNSでの発信を含めて幅広い世代に人気上昇中の若手写真家による猫の写真展を開催した。地元小樽の人々との交流を続け、長年に渡り一匹の猫と向き合った写真家が捉えた「ケンジ」の大きさは多くの来館者に癒しを与えた。

9～10月の秋の季節には、「相原正明写真展 On The Earth」を開催した。写真家30年を記念して、オーストラリア大陸にパワフルな地球の原風景を見出した30年の軌跡に、富山の夜の鉄道風景や、コロナ禍で撮りためた静物写真なども交えて155点展示した。会期中は4回のトークショー、2回の市内撮影会も実施して、写真家としての冒険譚をはじめ、写真の楽しさやセンスの磨き方を伝えていただいた。

11月～1月の冬の季節には、和紙に写真をプリントする「伊勢和紙による三輪薫写真展 風の香りー日本のこころの自然風景と花」を開催した。安藤忠雄建築の空間を活かして、窓辺の和紙が光を存分に取り込む展示となった。会期中は三輪薫氏による写真の添削指導や、伊勢和紙プリントのワークショップなども開催した。なお、会期中にカメラ館としては初めてNHK「日曜美術館アートシーン」で展覧会が紹介された。

1月～2月には教育普及事業として、歴史ある全国公募展「視点」の第50回全国巡回作品に特別展示を加えて開催した。ろうあ者に取材した伊藤知巳写真賞受賞者によるギャラリートークでは、任意により手話通訳が実施された。2月にはカメラ館主催で平成24年から続く全国公募展「ワンダーフォト写真展」を開催し、過去最大の応募作品を展示した。

常設展示事業では、前年度から引き続き「写真の20世紀ーカメラがとらえた歴史」の展示を継続した。11月からはカメラ担当が入れ替わり「昭和100年目のカメラ展」を開催した。年間を通じて、歴史の出来事やカメラの発展の歴史を伝えるとともに、同時代に開発されたカメラを誰にでも親しみやすいテーマと分かりやすい切り口でカメラを紹介した。そのほか、クラシックカメラの歴史や変遷などを紹介する映像番組の上映や、図解パネルなどを常置し、触れるクラシックカメラの体験コーナーも好評である。また、昨年に続いてカメラをテーマにした夏休みクイズラリーを実施し、子どもたちがカメラに親しむ機会を提供した。

導入3年目となる年間パスポートは継続し、11月3日まで販売した。昨年を22件超える349件を売上げ、リピート観覧に役立てていただいている。

なお、令和7年度は開館25周年にあたり、25周年ロゴマークを作成してPRを図るとともに、フィルムを使用したカメラでの撮影体験講座や、カメラを知り尽くしたカメラ技術開発者を招きカメラトークを実施して常設展への関心も高めた。

8 古城公園動物園事業

動物園では飼育展示のほか、特別展、動物園だよりの発刊等の事業を実施した。

ウサギやテンジクネズミ等の小動物に直接触れることができる「ふれあい広場」の事業については、園児等多数の来園者から好評を得ている。

レクリエーション施設としての機能はもとより、情操教育の場及び環境保全への貢献のために、動物愛護の啓発や情報発信、園内での繁殖に努めた。

9 生涯学習センター（ホール施設）

403席を有する劇場ホールの貸館業務を実施し、音楽公演や講演会などの生涯学習利用や、企業の研修会利用など、多くの方に利用されている。また、利用者とのコミュニケーションを密にとることで信頼関係を高め、高岡市生涯学習センターホールの利用満足度向上に努めた。

Ⅲ 評議員会に関する事項

1 審議内容

- | | |
|--|----|
| (1) 第29回評議員会 令和7年4月1日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第1号 理事の選任について | 可決 |
| 議案第2号 監事の選任について | 可決 |
|
 | |
| (2) 第30回評議員会 令和7年5月30日開催 | |
| 報告第1号 令和6年度事業報告について | 承認 |
| 議案第3号 令和6年度決算の承認について | 可決 |
|
 | |
| (3) 第31回評議員会 令和7年7月12日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第4号 理事の選任について | 可決 |
|
 | |
| (4) 第32回評議員会 令和7年12月1日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第5号 理事の選任について | 可決 |
|
 | |
| (5) 第33回評議員会 令和7年12月23日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第6号 公益財団法人高岡市民文化振興事業団常勤役員の報酬等に関する規程の改定について | 可決 |

Ⅳ 理事会に関する事項

1 審議内容

- | | |
|-------------------------------------|----|
| (1) 第72回理事会 令和7年5月12日開催 | |
| 議案第1号 令和6年度事業報告の承認について | 可決 |
| 議案第2号 令和6年度決算の承認について | 可決 |
| 議案第3号 第30回評議員会の招集について | 可決 |
| 報告第1号 代表理事と専務理事の職務執行状況について | 承認 |
|
 | |
| (2) 第73回理事会 令和7年7月12日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第4号 第31回評議員会への議案提出について | 可決 |
|
 | |
| (3) 第74回理事会 令和7年7月12日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第5号 理事長（代表理事）の選定について | 可決 |
|
 | |
| (4) 第75回理事会 令和7年12月1日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第6号 第32回評議員会への議案提出について | 可決 |

